

「自然・歴史・地域を守る砂留」

2020年(令和2年)1月18日 堂々川ホタル同好会情報紙2019年度10号(創刊より 180号)

2020年(令和2年)明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します

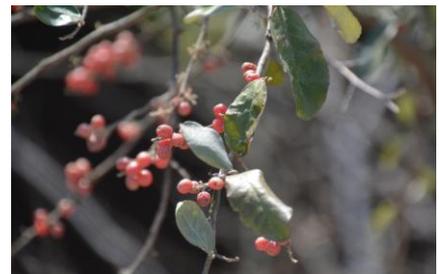
1. 今年の同好会のテーマは「砂留文化を次世代に繋ごう」です
2. 具体的にはホタル・不法投棄物を無くし、雑木・草を排除した溪谷に夏の風物詩の黄色い光を提供する事、花・過去12年間児童・園児らと植栽した花色24色の彼岸花を観賞地にした里にしたい事、砂留・「すなどめ群」の文化遺産を守る事です。既に成果としては、昨年だけ？ホタル飛翔福山一、19万本の広島県トップレベルの開花等、日本登録有形文化財の砂留の整備の3つのお宝で、福山の観光地に仕上げたボランティア活動の継続です。
3. 最近、生物多様性という言葉がよく使われますが、絶滅危惧種や貴重な生き物も住む川を守ります。これは地域の安心安全に繋がります。不法投棄を防止し彼岸花で広島県一の里にする。洪水・天井川に対応する砂の流れ防止と砂留整備とは同次元では難しいが、頑張っています
4. 同好会の高校生、大学生も頑張ってくれています！彼らは2つの砂留を発見しました
5. 今回の裏面は、カスミサンショウウオが形態や産卵生態、DNA分析などによって9種に分類された新しい名前(ヤマト、サシ、イミ、ヤマガチ、セトウチ、ヒバ、アキ、アブ、カスミ)の内のセトウチサンショウウオの記事です。福山大学の学生さんの寄稿です
6. 3月には岩手県盛岡市で日本水環境学会の「水環境文化賞」表彰式があり参加します(内定)
7. フォトで見る活動



猪に掘り上げられた球根



堂々川鳶が迫谷の猪 約30kg



堂々川筋で熟れるアキグミ



堂々川最大の水車小屋跡



新発見 御領瀬名田砂留



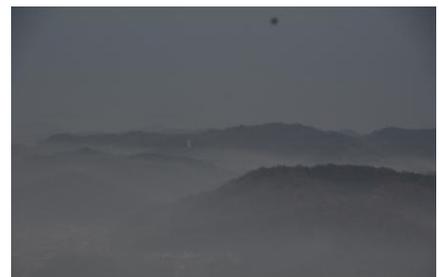
生物多様性の現場



9日5番砂留下の草刈り



来季の課題 4番川原で再度
ビホ-プ造りを進めたい



堂々川東の山頂で見る雲海

8..次回の定例会行事

○日時：令和2年2月の定例会は日時の設定はしません。4番、5番砂留川原の草刈りをします。時間が取れる人はご協力ください。 堂々川ホタル同好会 発行責任者 土肥 携帯 090-2865-3486

絶滅危惧種が生きている、神辺・堂々公園!!

堂々川周辺には、セトウチサンショウウオという生き物が暮らしています。サンショウウオと言っても、あの大きなオオサンショウウオではなく、成体(大人)でも全長 10 cmほどの小さな生き物です。

普段は山の中で暮らしているので私たちが目にすることは少ないのですが、早春になると産卵のため湿地に集まってきた成体(親)を観察することができます。



山から湿地へ降りてきた親

セトウチサンショウウオの卵は、卵囊(らのう)と呼ばれます。

卵囊はバナナのような形をしたゼリー状の袋で、この袋のなかにたくさんの卵が入っています。



← 成体(親)と卵囊

幼生 →



卵を産んだ親はまた山へ帰って行きますが、5月頃になると湿地では卵から孵ったたくさんの幼生(赤ちゃん)を見ることができます。幼生はウーパールーパーのような見た目をしていて、水の中の昆虫などを食べながら成長します。

7月頃になると、幼生は今までの鰓(エラ)呼吸から、肺と皮膚での呼吸へと変わり、生活の場を水中から水上(陸)へと移します。このように、一生のうち、水中と陸の両方で生活することから「両生類」と呼ばれています。

このセトウチサンショウウオは、近年では土地の開発などによって生息地が減っており、広島県では絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)に指定されています。堂々公園に、絶滅の危機に瀕している生き物が棲んでいることを、多くの方に知っていただくことが保全への第一歩だと考えています。

福山大学生命工学部海洋生物科学科水族生態遺伝学研究室
阪本憲司・釜坂 綾・河野雅也・副島春奈